

研究機関名 果樹試験場栽培部栽培担当
担当者 近藤 悟

I 新技術の解説

(1) 要 旨

○ね ら い

クサカットゾルの使用により抑草期間が長期に及び除草作業回数の軽減につながる。

○経過と方法

リンゴ樹に対してクサカットゾル2000倍（薬量750ml、水量150ℓ／10a当たり）を平成5年5月11日と7月1日に茎葉散布した。

○技術の要旨

クサカットゾルの春期処理では1年草が50日以上、多年草でも40日間の抑草期間があり、夏期処理では1年草、多年草ともに75日間の長期にわたり抑草効果が認められ、2～3回分の除草作業の軽減につながる事が確認され、平成7年度の防除基準に採用された。

(2) もたらされる効果

除草作業の回数軽減による作業時間の短縮と他作業（摘果、夏期管理等）との作業競合の回避。

(3) 普及対象範囲

県内全域（リンゴ樹）

(4) 普及上の留意事項

- ① 幼木では使用しない。また砂質土壌や水はけのよい土壌では降雨量の多いとき使用を避ける（本剤に含まれるDCMUによる薬害防止のため）
- ② リンゴ樹に飛散しないように散布する（薬害）

(5) 発表文献等

な し

II 具体的なデータ等

表－1 殺草効果又は抑草効果と再生の程度（春期処理）

試験区 散布月日	草種	殺草効果(経過日数別)						再生程度(同左)				試験終了 時の草高	抑草期間 (日)	
		1	3	5	10	15	20	30	20	30	50			70
クサカット (5月11日)	ギ シ ギ シ	—	—	±	±	+	##+	##	~			5	40~50cm	40
	ハ コ ベ	—	—	±	##	##	##~×	×	~##			2	20~25	50以上
	スズメノカタビラ	—	—	—	+	##~##	×					3	20	50
	オオイヌノフグリ	—	—	±	##	##~×	×				1	2~3	20	50以上

表－2 草種の変化と効果（春期処理）

処理区	草種	被度(%)		雑草に及ぼす影響		
		処理時 5月11日	終了時 50日後	草種の変化	効果の高い 草種	効果の低い 草種
クサカット	ギ シ ギ シ	40	40			
	ハ コ ベ	20	5		ハ コ ベ	
	スズメノカタビラ	15	15			
	オオイヌノフグリ	15	15			

表－3 殺草効果又は抑草効果と再生の程度（夏期処理）

試験区 散布月日	草種	殺草効果(経過日数別)						再生程度(同左)				試験終了 時の草高	抑草期間 (日)	
		10	20	30	40	50	60	30	40	50	60			75
クサカット (7月1日)	ギ シ ギ シ	##	##~##	##	##			0	1	2	2~3	3	20cm	75
	ハ コ ベ	##~##	×	×	×			0	0	1	2	3	15	75
	スズメノカタビラ	##~##	×	×	×			0	0	0	0	0	—	75以上
	オオイヌノフグリ	##~##	×	×	×			0	0	0	1	2	10	75以上

表－3 草種の変化と効果(夏期処理)

処理区	草種	被度(%)		雑草に及ぼす影響		
		処理時 7月1日	終了時 75日後	草種の変化	効果の高い 草種	効果の低い 草種
クサカット	ギ シ ギ シ	40	15			
	ハ コ ベ	5	50			
	スズメノカタビラ	15	0		スズメノカタビラ	
	オオイヌノフグリ	15	10			

殺草効果程度の基準

- 効果がない
- ± 効果は極めて小さい
- +
- ## 効果は葉の一部にみられるが葉全体におよばない
- ## 効果は葉で著しいが茎までおよばない
- ## 効果は株全体におよぶ
- ×
- × 株が枯死し、再生はみられない

再生程度の基準

- 0 全く再生がみられない
- 1 再生が著しく少ない
- 2 再生が認められるが、草高が10cm以下
- 3 “ 草高が20cm以下
- 4 刈取りが必要な程度(草高20cm以上)
- 5 再生量多く、前項を上回る(30cm以上)

発行年月	9506	キーワード	160
基礎分類	05	キーワード	
作目名	35	キーワード	